



第35回紫式部文学賞・紫式部市民文化賞
贈呈式
受賞者講演会

令和7年11月22日（土）

宇治市・宇治市教育委員会

第 3 5 回紫式部文学賞受賞作品

『大使とその妻』

著 者： 水村 美苗 （みずむら みなえ）

発 行： 令和6年9月25日

出版社： 新潮社



著者略歴

生年月日：1951 年（昭和 26 年）3 月 15 日

出生地：東京都

最終学歴：イエール大学大学院仏文科博士課程修了

在住地：東京都

（その他：12 歳のときに父の仕事の都合で渡米し、以来米国で教育を受ける。）

作品紹介と講評

選考委員長 鈴木 貞美

ゲイのアメリカ人男性・ケヴィンがコロナ禍を避けて、人里離れた追分の山小屋で、はじめて冬を越そうと思い立ち、日本語で手記を綴りはじめる。彼は、将来を嘱望された兄が運転していた車の事故で亡くなり、劣等感に苛まれたまま、父親からは見放され、兄が死んだのはおまえのせいだと責める姉と縁を切り、シカゴを離れて東京で動画サイト「失われた日本を求めて」を立ち上げていた。それは父親歿後、資産を受けついだ日本趣味の外国人ならではの、の企画だった。

その前の年、彼は、京都の宮大工を入れて隣の山荘を改築して越してきた外交官・篠田氏の夫人・貴子が夜の露台で狂気を孕んだ薪能を舞う姿を垣間見て、深く惹かれ、夫妻と親交を重ね、彼女の数奇な生い立ちを知ってゆく。貴子は、第二次世界大戦後、ブラジルで日本の勝ちを信じ、敗戦を認める同胞と死闘を繰り広げた「勝ち組」の男の娘に生まれた。父親はサンパウロの日本人街で書店を営む夫婦に娘を託し「ちゃんとした日本人」に育ててくれと言いついて姿を消した。貴子は、恋愛沙汰を起こして政治家の父親から勘当され、サンパウロにやってきた女性に見込まれ、幼いときから能の舞を仕込まれた。やがて日系ブラジル人のために弁護士になった貴子は篠田大使と結ばれ、「日本の土に還りたい」と願いを抱いて、変貌著しい京都に暮らしはじめると、パニック発作に襲われるようになった。彼女の心の病を癒すため、夫妻は山荘に引きこもり、和風趣味を演じることを自ら「ニッポンごっ

こ」と呼んでいた。ふと、今日、浮遊する「日本らしさ」の象徴か、などと
想いもする。だが、いま、夫妻は再び南米に飛んだのか、隣の山荘に人影は
ない。

篠田夫妻のほか、ケヴィンの交遊録は際立って個性の強い外国人と、さほ
どでもない日本人を取り混ぜて織りなす人生模様は興味つきない。それでい
てデリカシーに満ちているのは、グローバリゼーションの渚のあたりを漂う
人々ゆえか。

ケヴィン自身は、たとえば、貴子が無気なく漏らした一言から、姉が心に
宿していた罪障感に思い至り、ZOOMで交信を重ねてその仲を修復してゆ
く。回想を綴るうちには、兄への劣等感から解き放たれていった経緯も蘇る。
若き日に失った自分を取り戻した彼のもとに、篠田氏を失い、通信が途絶え
たままだった貴子から和風趣味の封筒が届いて、手記は閉じる。

作品紹介と講評

選考委員 竹田 青嗣

舞台は軽井沢追分。俗世から離れた孤独な翻訳者ケヴィンは、隣家の元外交官篠田夫妻と交流するが、美しい能を舞うその妻貴子のたたずまいに強く引かれ、彼女の数奇な来歴を書きつづろうとする。物語は、ブラジル移民の子として現地で育った貴子が、さまざまな人物と出会いながら不思議な仕方で日本的な文化を身につけてゆく経緯が描かれる。大きな歴史の流れと小さな人間の悲しみや夢のクロニクルといえるような物語が、いくつもの流れをともなって展開する。月から降りてきたこの世ならぬ高貴さをもつ「かぐや姫」的な貴種流離譚とも、時間と記憶が不思議に交錯するプルースト的な物語の日本版とも読める。ストーリーの複数性、多彩なモチーフを自在に繰り広げながら、それらを収斂させてゆく文学的な手腕は読者を堪能させる。最後に、なぜ人は「美しいもの」に引かれるのだろうかという問いが、静かに心に残るような小説だ。

受賞の言葉

水村 美苗

このたびは紫式部文学賞を賜り、心より感謝を申し上げます。これ以上大きなお名前はない賞です。日本が世界にもっとも誇れるものを一つだけ挙げよ——そう言われたら、世界の人、少しでも教養があれば、迷わずに『源氏物語』の名を挙げるでしょう。今から一千年以上も前に私たちの言葉で書かれ、そして読みつがれてきた、かくも奥の深い文学があったという事実。しかもその文学が女の人の手によるものであったという事実。それはこの先何があろうと人類が存在する限り消すことのできない、歴史的、文学的事実です。文学は過去の文学を糧として生まれます。今回この賞を賜り、自分が書くものがそのような文学とつながっているという幸福、いや、女の物書きとしてより深くつながっているという幸福を、高らかに謳い上げたい気持です。もう作家としての年月が限られた身ではありますが、書き続けられるだけ書き続けたく思っております。ありがとうございました。

《第35回 紫式部文学賞 推薦要項》

1. 趣旨

「紫式部文学賞」は、伝統ある日本女性文学の継承と発展に寄与するとともに、市民文化の向上を目的としています。

※宇治市では、「源氏物語」最後の十帖の舞台となっていることから、源氏物語をテーマにしたまちづくりを推進しています。宇治には、世界文化遺産に登録されている平等院や宇治上神社をはじめ、歴史・文化遺産が多く存在します。また、宇治川を中心とした趣ある自然景観は、万葉集や平家物語など多くの文学に登場します。

2. 主催

宇治市・宇治市教育委員会

3. 作品のジャンル

小説、戯曲、評論、随筆、詩、歌句、翻訳及びノンフィクション等の文学作品
(ただし、詩及び歌句については、ある程度の作品を収録した「集」の体裁をとるものとする。)

4. 作品の要件

- ①作者が女性であること。
- ②令和6年1月1日から令和6年12月31日までに刊行された作品(単行本)であること。
- ③日本語の作品であること。

5. 作品の推薦

- ①市内に在住、在勤、在学する市民からの推薦(公募)
- ②全国の作家、文芸評論家、出版社及び新聞社等からの推薦(非公募)

6. 推薦受付期間

令和7年2月3日(月)から令和7年2月28日(金)まで

7. 受賞作品発表・贈呈式(予定)

- ①受賞作品発表: 令和7年10月
- ②贈呈式: 令和7年11月

8. 受賞作品及び賞

- ①受賞作品は1点。(ただし、当賞にふさわしい作品がない場合には該当なしとし、優劣をつけがたい作品が複数ある場合については、2作品を限度に増やすことができることとする。)
- ②正賞(クリスタル像)及び副賞(100万円)

9. 選考委員(50音順・敬称略)

川上 弘美 : 作家
鈴木 貞美 : 文芸評論家、国際日本文化研究センター名誉教授
竹田 青嗣 : 文芸評論家、哲学者、大学院大学至善館教授、早稲田大学名誉教授
平田 俊子 : 詩人
村田 喜代子 : 作家

10. 推薦受付・問い合わせ先

〒611-8501 宇治市宇治琵琶33 宇治市文化スポーツ課 文化係
電話: 0774-20-8724(直通) / FAX: 0774-20-8977
E-mail: bunkasportska@city.uji.kyoto.jp (問い合わせのみ)

《紫式部文学賞受賞作品一覧》

開催回	受賞作品	発行者	受賞者	推薦作品数
第1回	『式子内親王伝一面影びとは法然一』	朝日新聞社	石丸 晶子	34 作品
第2回	『きらきらひかる』	新潮社	江國 香織	57 作品
第3回	『十六夜橋』	径書房	石牟礼 道子	70 作品
第4回	『淀川にちかい町から』	講談社	岩阪 恵子	51 作品
第5回	『アムリタ』	ベネッセコーポレーション	吉本 ばなな	57 作品
第6回	『夫の始末』	講談社	田中 澄江	62 作品
第7回	『蟹女』	文藝春秋	村田 喜代子	54 作品
第8回	『齋藤史全歌集』	大和書房	齋藤 史	59 作品
第9回	『神様』	中央公論新社	川上 弘美	68 作品
第10回	『菓子子の京』	講談社	三枝 和子	58 作品
第11回	『釋道空ノート』	岩波書店	富岡 多恵子	55 作品
第12回	『歩く』	青磁社	河野 裕子	52 作品
第13回	『浦安うた日記』	作品社	大庭 みな子	60 作品
第14回	『愛する源氏物語』	文藝春秋	俵 万智	52 作品
第15回	『ナラ・レポート』	文藝春秋	津島 佑子	49 作品
第16回	『沼地のある森を抜けて』	新潮社	梨木 香歩	52 作品
第17回	『歌説話の世界』	講談社	馬場 あき子	52 作品
第18回	『とげ抜き 新巢鴨地蔵縁起』	講談社	伊藤 比呂美	53 作品
第19回	『女神記』	角川書店	桐野 夏生	50 作品
第20回	『ヘヴン』	講談社	川上 未映子	51 作品
第21回	『尼僧とキュービッドの弓』	講談社	多和田 葉子	59 作品
第22回	『評伝 野上彌生子ー迷路を抜けて森へ』	新潮社	岩橋 邦枝	66 作品
第23回	『東京プリズン』	河出書房新社	赤坂 真理	62 作品
第24回	『『青鞥』の冒険 女が集まって雑誌をつくるということ』	平凡社	森 まゆみ	59 作品
第25回	『晩鐘』	文藝春秋	佐藤 愛子	61 作品
第26回	『戯れ言の自由』	思潮社	平田 俊子	69 作品
第27回	『浮遊霊ブラジル』	文藝春秋	津村 記久子	58 作品
第28回	『えびすとれー』	本阿弥書店	水原 紫苑	61 作品
第29回	『パンと野いちご 戦火のセルビア、食物の記憶』	勁草書房	山崎 佳代子	67 作品
第30回	『夢見る帝国図書館』	文藝春秋	中島 京子	64 作品
第31回	『組曲 わすれこうじ』	新潮社	黒田 夏子	55 作品
第32回	『夕暮れに夜明けの歌を 文学を探しにロシアに行く』	イースト・プレス	奈倉 有里	58 作品
第33回	『イコ トラベリング 1948ー』	KADOKAWA	角野 栄子	69 作品
第34回	『風配図 WIND ROSE』	河出書房新社	皆川 博子	51 作品
第35回	『大使とその妻』	新潮社	水村 美苗	57 作品

《第1回～第35回「紫式部文学賞」推薦状況》

■推薦作品数

ジャンル	第1回	第2回	第3回	第4回	第5回	第6回	第7回	第8回	第9回	第10回	第11回	第12回	第13回	第14回	第15回
小説	22	29	34	23	28	33	30	27	28	24	25	25	32	23	28
随筆	3	6	8	7	12	9	9	7	12	13	8	6	8	8	1
評論・評伝・研究	2	8	9	7	4	6	8	8	6	6	6	5	4	8	4
詩集・歌集・句集	4	11	9	7	10	10	7	16	14	10	12	14	15	9	8
ノンフィクション	2	3	10	6	3	4	0	1	4	3	2	1	0	1	3
翻訳・その他	1	0	0	1	0	0	0	0	4	2	2	1	1	3	5
合 計	34	57	70	51	57	62	54	59	68	58	55	52	60	52	49

ジャンル	第16回	第17回	第18回	第19回	第20回	第21回	第22回	第23回	第24回	第25回	第26回	第27回	第28回	第29回	第30回
小説	27	32	30	24	24	35	31	32	35	36	37	37	36	32	33
随筆	5	3	3	7	5	6	3	3	5	4	2	3	3	8	9
評論・評伝・研究	9	5	8	6	7	5	15	13	9	7	10	6	4	5	5
詩集・歌集・句集	9	12	11	10	11	11	11	11	9	8	13	12	15	16	11
ノンフィクション	2	0	1	0	2	1	5	2	0	5	4	0	1	3	4
翻訳・その他	0	0	0	3	2	1	1	1	1	1	3	0	2	3	2
合 計	52	52	53	50	51	59	66	62	59	61	69	58	61	67	64

ジャンル	第31回	第32回	第33回	第34回	第35回
小説	30	28	38	27	28
随筆	3	9	8	5	1
評論・評伝・研究	7	4	4	4	6
詩集・歌集・句集	10	14	13	12	13
ノンフィクション	3	1	2	0	2
翻訳・その他	2	2	4	3	7
合 計	55	58	69	51	57

《第1回～第35回「紫式部文学賞」推薦状況》

■推薦回答件数

区分	第1回		第2回		第3回		第4回		第5回		第6回		第7回		第8回		第9回		第10回		第11回		第12回		第13回		第14回		第15回	
	発送	回答	発送	回答	発送	回答	発送	回答	発送	回答	発送	回答	発送	回答	発送	回答	発送	回答	発送	回答	発送	回答	発送	回答	発送	回答	発送	回答	発送	回答
作家	72	4	141	33	142	14	140	32	129	17	166	27	162	29	163	25	163	24	161	21	155	26	154	18	152	20	154	15	153	15
文芸評論家	30	9	49	22	53	17	52	29	49	18	53	15	52	17	51	19	51	18	49	12	48	15	46	8	48	18	48	10	50	9
選考委員等	10	2	10	2	10	1	10	1	10	1	10	2	10	0	10	3	10	2	10	2	10	1	10	0	9	1	10	0	10	0
出版社	42	20	88	22	99	35	98	28	97	32	99	37	100	24	103	31	106	34	105	31	105	26	105	35	108	34	113	29	110	23
新聞社	40	2	40	5	40	3	40	0	39	2	40	0	40	2	45	4	44	3	44	3	44	1	45	3	45	4	45	5	45	4
市民推薦人	10	9	9	9	10	10	6	5	3	3	3	3	2	1	8	8	7	7	3	3	5	5	6	6	4	4	4	4	10	8
合計	204	46	337	93	354	80	346	95	327	73	371	84	366	73	380	90	381	88	372	72	367	74	366	70	366	81	374	63	378	59

区分	第16回		第17回		第18回		第19回		第20回		第21回		第22回		第23回		第24回		第25回		第26回		第27回		第28回		第29回		第30回	
	発送	回答	発送	回答	発送	回答	発送	回答	発送	回答	発送	回答	発送	回答	発送	回答	発送	回答	発送	回答	発送	回答	発送	回答	発送	回答	発送	回答	発送	回答
作家	195	20	194	16	183	20	185	17	186	14	188	15	184	17	174	14	178	14	183	14	189	20	146	18	144	18	142	19	141	17
文芸評論家	50	9	48	12	47	11	48	7	47	7	45	4	44	10	44	11	53	6	56	7	63	9	61	11	60	13	59	10	58	11
選考委員等	10	0	10	0	11	3	12	1	12	2	12	1	13	1	12	3	12	2	12	2	11	1	12	1	11	1	12	2	11	1
出版社	108	28	106	26	107	24	108	28	107	30	103	36	105	38	103	32	104	35	97	39	95	40	87	31	88	34	91	37	92	40
新聞社	45	3	44	1	44	3	44	1	44	1	44	1	44	4	44	3	44	2	44	1	44	3	53	2	53	0	53	4	53	2
書店・図書館・サークル	15	3	16	2	16	2	16	2	73	2	71	2	70	3	69	3	67	3	66	2	67	3	66	3	66	4	63	6	59	3
市民推薦人	5	5	3	3	3	3	5	5	5	5	6	6	5	5	8	7	5	5	4	5	3	3	4	4	7	7	7	6	5	5
合計	428	68	421	60	411	66	418	61	474	61	469	65	465	78	454	73	463	67	462	70	472	79	429	70	429	77	427	84	419	79

区分	第31回		第32回		第33回		第34回		第35回	
	発送	回答	発送	回答	発送	回答	発送	回答	発送	回答
作家	150	18	156	14	152	13	160	15	148	15
文芸評論家	56	15	56	15	53	18	53	14	47	12
選考委員等	11	1	10	0	10	0	10	1	9	0
出版社	92	30	93	33	94	40	94	28	93	32
新聞社	53	3	53	1	53	4	53	1	53	2
書店・図書館・サークル	59	2	58	2	58	3	58	3	57	2
市民推薦人	2	1	-	8	-	1	-	2	-	3
合計	423	70	426	73	420	79	428	64	407	66

第35回紫式部市民文化賞
受賞作品

紀行文『回想のアーミデール
—ある昆虫研究者の異文化体験』

著者：松良 俊明 （まつら としあき）

新作



著者略歴

1947 年 大阪市生まれ

京都大学農学部農林生物学科卒業

京都大学大学院農学研究科博士課程修了

京都教育大学理学科教授を経て、

現在、京都教育大学名誉教授、京都市青少年科学センター学術顧問

作品紹介と講評

選考委員 藤井 直

本作品は、今から 30 数年前に昆虫研究のために訪れたオーストラリアでの約半年間にわたる回想録ですが、当時の日記やフィールドノート、写真などから掘り起こされた内容は、まるで現在進行形で起きている出来事のように、生き生きと描かれています。現地での多岐にわたる体験がテンポ良く展開されており、一つ一つのエピソードに引き込まれ、楽しく読み進めることができる作品です。とりわけ、現地の歴史や文化に関する考察・評価や、多くの人々との心温まる交流、研究旅行中の様々なハプニングなどが、時に自虐的に、あるいはユーモアや皮肉を交えながら丁寧に描かれ、心揺さぶられる異文化体験記であり、本賞に相応しい作品として高く評価するものです。

受賞の言葉

松良 俊明

この度は選出していただきありがとうございました。

私はアリジゴクという昆虫の生態・行動を研究してきた関係上、オーストラリアで研究を行う機会を得ることができました。今から 30 数年前の話であります。滞在先はアーミデールという小さな地方都市にある大学でした。その大学には学生らが暮らすカレッジ（学寮）がいくつかあり、そのうち最も格式高くまた様々な伝統的行事の残っているカレッジに半年間滞在しました。地方都市ならではの豊かな自然と明るく素朴な人々との交流は今でも私の心に残っています。

その後も幾度かオーストラリアを訪れましたが、ここに綴った最初の思い出が私には最も印象が深いものがあります。今回、宇治市が市民向けに企画されている本事業に応募することで、自分の心に残ったさまざまな事柄を回想してみました。老人の昔語りではありますが、一昔前のかの地の人と自然の一断面を一個人の目から記述しました。

第35回紫式部市民文化賞 奨励賞
受賞作品

随筆『私の投稿50年』

著者：水上 壽恵（みずかみ としえ）

新作



著者略歴

- | | |
|-------------|-------------------------|
| 1950 年 1 月 | 京都市生まれ |
| 1968 年 3 月 | 京都市立塔南高等学校 卒業 |
| 1969 年 10 月 | 結婚 宇治市小倉町に住む |
| 1976 年 | 新聞に投稿始める |
| 1978 年 10 月 | 主人が京都中央サトー製品販売（株）を始める |
| 2002 年 4 月 | 同志社大学文学部文化学科国文学専攻 社会人入学 |
| 2006 年 3 月 | 〃 卒業 |

子供二人はそれぞれ独立 現在は主人と 2 人暮らし

肩書きはいつも主婦としているが今も会社の経理を手伝う

作品紹介と講評

選考委員 塩見 啓子

この作品は作者の水上さんが、26歳から現在に至るまで、京都新聞の読者欄を始めとする媒体に投稿してきた58編をまとめられたものです。エッセイが中心で、詩や川柳も一部含まれています。投稿作品という性格から、限られた文字数の中で思いや出来事をうまく表現されており、読者も水上さんの50年を追体験するような気持ちになります。

決して平たんなだけの日常ではなかったと思いますが、読むと心が温かくなるのは、少女の頃からの吹奏楽との縁、祖父のスーツが一代またいで孫に伝わる話など、いい意味で印象的なエピソードが多いからだと思います。

水上さんは今まで詩や童話など、好感の持てる新作を何度か応募されています。そのベースにもなった作品として、奨励賞に選考させていただきました。

受賞の言葉

水上 壽恵

新しい家が次々に建ち、子供達の数も増えて運動会も地蔵盆やお祭りも賑やかで町中元気だった昭和四十年代に結婚してこの宇治に住み始めました。

そんな中で日々の子供や家族の様子を詩や文書にして新聞に投稿し始めました。自分の名前が活字になるのが嬉しくていろいろ書いて載せてもらいました。

近所の人や主人の知人から「新聞見たよ」と言われるのも楽しみで投稿し続けました。載っていた新聞は大事に残していつの間にか五十年も経っていました。

いつかそれらを文集にしてみたいと思っていたところ、市民文化賞のチラシを見て問い合わせしてみました。でも切り抜きのままでは出せないなので娘に相談したところ娘の旦那さんがパソコンに打ってくれるという事になり一気に応募ムードになりました。

そして奨励賞受賞の電話を頂き最高に嬉しかったです。娘婿の病の寛解を願ってあなたのおかげでこの賞を貰えた事を伝えたいです。

第35回紫式部市民文化賞 ユース賞
受賞作品

小説『依頼料理屋^{しじま}四島』

著者：山本 結月（やまもと ゆづき）

新作



著者略歴

2007 年生まれ

立命館宇治高等学校在学中。文芸部所属。

作品紹介と講評

選考委員 木股 知史

ビル群の間の路地を通り抜けたところにある依頼料理屋四島。そこは作った人の持ち物から料理を再現してくれる不思議な店である。永井未来は母の形見のハンカチで、母の肉じゃがの再現を四島に依頼する。店主の四島は、形見から思い出を読みとって肉じゃがを作り始める。料理の再現をめぐる物語は、マンガやドラマにもよくあるが、本作は永井未来が母の「想い」を追体験するところに力点を置いている。ただなつかしい母の味が再現されるだけではなく、忙しさに追われて忘れていた亡き母の気持ちをありありと感ずることができて、永井未来は自信も回復する。不思議さを媒介にして心の成長がていねいに描かれているところが本作の魅力となっている。

受賞の言葉

山本 結月

このたび、紫式部市民文化賞ユース賞という素晴らしい賞に選出いただき、大変光栄に思います。受賞の知らせを聞いたときは、嬉しさよりも驚きでいっぱいでした。画面に向かい合っているときは自分の中にある考えや、思いや、迷いを言葉にしているだけで、それが誰かに届くという実感があまり湧いていませんでした。しかし、こうして賞として形になり、読んでくださった方がいることを知り、書くことの意味と喜びを改めて感じています。幼少のころから本が大好きで、中学のころから執筆を始め、いくつもの物語と苦楽を共にしてきましたが、ようやく創作者としての第一歩を踏み出せたような気がします。まだまだ表現も語彙も拙く、学ぶべきことばかりですが、これからも人の心に残るような素敵な小説を、私自身が楽しみながら書いていきたいと思います。本当にありがとうございます。

第35回紫式部市民文化賞 ユース賞
受賞作品

句集『令和6年度 思い出川柳』

著者：京都府立宇治支援学校
高等部くらし健康コース

新作



著者略歴

京都府立宇治支援学校は、「喜びはともにあること」という教育理念のもと、児童生徒の「よりよく生きる力をはぐくむ」ために、さまざまな教育活動に取り組んでいる。高等部は、学び方に応じて3つのコースを設定しており、くらし健康コースでは、生活の質の向上や地域との関わりを広げ、福祉就労等、社会に参加できる力を身につけることを目指している。

令和6年度の生活単元学習「一年を振り返ろう」では、1・2年生の7名が一年間のあゆみを振り返り、成長を感じたり次年度への期待感をもったりすることをねらいとして、思い出川柳作りに取り組んだ。活動をとおして、写真からイメージを膨らませたり、5・7・5の言葉のリズムに親しんだりして、自分の頑張りや感じた気持ちを、指導者と一緒に考えた言葉で表現することができた。

作品紹介と講評

選考委員 塩見 啓子

同作はタイトルどおり、高校生たちが学校生活の思い出を、五七五で鮮やかに表現した合同句集です。最初のページはこんな川柳で始まります。

まちきれない みんなでいくぞ きゅうしゅう

何と素直に、修学旅行を前にした高揚感が伝わってくるではありませんか！ 各ページには作品が詠まれた場面の写真が小さく添えられており、言葉による表現と相乗効果を上げています。

川柳を詠んだのは、皆さん、何らかの支援を必要とする生徒さんたちです。でもそんなことに関係なく、青春はカラフルで、賑やかで、わくわくする体験に満ちていることが伝わってきます。そこには学校仲間がいて、支えてくれる先生方もおられます。そんな背景も念頭におきつつ、共著としては初めてのユース賞に選ばせていただきました。

受賞の言葉

「うれしいな 素敵な賞を ありがとう」

令和6年度の生活単元学習「一年を振り返ろう」では、私たちの一年間のあゆみを振り返り、思い出川柳作りに挑戦しました。写真からイメージを膨らませたり、五七五のリズムに親しんだりしながら、自分の頑張ったり感じた気持ちを、先生と一緒に言葉にする楽しさを感じることができました。ユース賞の受賞を聞いた時、はじめはびっくりしてドキドキしましたが、改めて川柳を読み返してみると、修学旅行や総合文化祭「うじ えん-JOY フェスタ」等の行事や季節ごとの取組で感じた気持ちを思い出すことができ、教室にはみんなの笑顔や笑い声があふれていました。楽しい思い出を振り返りながら作った川柳をとおして、私たちにとって大切な学校生活での学びや日々感じている気持ちを伝えられて、とても嬉しいです。これからもいろいろな形や方法で、地域のたくさんの方々とつながり、気持ちを表現し続けていきたいと思えます。

《第35回 紫式部市民文化賞 募集要項》

1. 趣旨

「源氏物語」など数々の古典文学の舞台となった本市の文化的伝統の継承・発展を図り、市民文化の向上に資することを目的とします。

2. 主催

宇治市・宇治市教育委員会

3. 応募受付期間

令和7年4月1日（火）～5月30日（金）

※郵送の場合は当日消印有効（市役所窓口での受付は開庁時間に限りません）。

4. 作品のジャンル

小説（ライトノベルを含む）、戯曲、評論、随筆、紀行文、童話、詩及び歌句（20程度必要）等の文学作品並びに研究作品（文学、歴史、民俗等）。

5. 作品の要件

新作、または令和6年4月1日～令和7年3月31日までに刊行（※奥付の発行年月日による）された日本語の作品。

6. 作品の規格

- ①原稿作品または雑誌（綴じるか製本されたもの）もしくは単行本として印刷されたもの。
- ②原稿作品は、原則として400字詰め原稿用紙（A4）を使用してください。縦書き・横書きは問いません。パソコン・ワープロ原稿の場合、A4サイズ用の紙に読みやすく印字してください。

7. 応募資格

- ①応募の時点で、市内に在住・在勤・在学している人または市内を拠点に活動するグループ。
- ②性別、自薦・他薦の別は問いません。

8. 応募方法

- ①応募作品を郵送、メール送信または直接持参してください。
- ②原稿作品は指定の表紙に必要な事項を記載の上、ひもで綴じ、原稿には通し番号を付けてください。
- ③雑誌・単行本は、指定の表紙を添付の上、提出してください。雑誌等で該当する箇所が一部分である場合は、応募作品の箇所に見出し紙を貼ってください。
- ④メール送信による応募の場合は、件名を「紫式部市民文化賞応募作品送付」とし、作品と指定の表紙を添付してください。
- ⑤他薦による応募の場合は、推薦者の郵便番号・住所・氏名・電話番号を明記してください。
- ⑥応募作品は1人（1グループ）1点に限ります。
- ⑦応募に際しては、2部（コピー可）提出してください。事務局でのコピーは白黒コピーとなりますので、あらかじめご了承ください。コピー不可の場合は、8部提出してください。

9. 受賞作品及び賞

紫式部市民文化賞：2作品以内。正賞（クリスタル像）と副賞（図書カード3万円分）。

奨励賞（これまでの活動なども含め特に顕彰すべき作品）：2作品以内。副賞（図書カード5千円分）

ユース賞（作者が30歳未満で今後に期待する作品）：2作品以内。副賞（図書カード5千円分）

10. その他

- ①応募作品は著作権及びプライバシー権の侵害、各種コンプライアンス違反等の防止に努めてください。
- ②応募作品は返却しません。必要な人はコピーをとってください。
- ③市販されていない作品が受賞した場合、市民の皆さんに読んでいただくため受賞作品集にし、200部程度を実費頒布します。

11. 選考委員（50音順・敬称略）

植山 俊宏（京都教育大学名誉教授）、鶴飼 正樹（京都文教大学教授）、木股 知史（甲南大学名誉教授）、塩見 啓子（歌人）、坪内 稔典（俳人）、中川 成美（立命館大学名誉教授）、藤井 直（元京都府立高等学校長）

12. 応募・問い合わせ先

〒611-8501 宇治市宇治琵琶33 宇治市文化スポーツ課 文化係

電話 0774-20-8724 E-mail bunkasportska@city.uji.kyoto.jp

《第35回紫式部市民文化賞募集結果》

全応募作品数 33件(個人30件、団体3件)

ジャンル別

ジャンル	件数
小説	7
評論	0
随筆	8
童話	2
詩集	0
歌集	3
句集	4
研究	1
論文	1
翻訳	0
戯曲	0
紀行文	3
ノンフィクション	1
その他	3
合 計	33

年齢別

年齢別	人数(男)	人数(女)	合 計
10歳未満	0	0	0
10歳代	1	3	4
20歳代	0	0	0
30歳代	0	0	0
40歳代	0	0	0
50歳代	0	1	1
60歳代	4	3	7
70歳代	11	2	13
80歳代	4	1	5
90歳代	0	0	0
100歳以上	0	0	0
合 計	20	10	30

平均年齢	67.1	40.0	53.6
------	------	------	------

住所別

住 所	応募者数
池尾	0
伊勢田町	0
伊勢田町名木	0
宇治	4
大久保町	1
小倉町	1
折居台	0
五ヶ庄	6
木幡	2
志津川	1
白川	0
神明	0
炭山	0
寺山台	1
天神台	0
菟道	2
南陵町	0
西笠取	0
二尾	0
羽戸山	1
羽拍子町	0
東笠取	0
平尾台	1
開町	0
広野町	4
琵琶台	4
槇島町	1
明星町	0
安田町	0
六地藏	0
京都市	1
城陽市	0
舞鶴市	0
八幡市	0
京田辺市	0
木津川市	0
長岡京市	0
精華町	0
久御山町	0
宇治田原町	0
合 計	30

市外

男女別

性 別	人数
男	20
女	10
合 計	30

団体応募

種 別	件数
団体	3

種 別	件数
既刊	9
新作	24
合 計	33

《紫式部市民文化賞受賞作品一覧》

開催回	受賞作品	受賞者	選考委員特別賞		応募数
第1回	歌集「歌集 清明の季」	山本治子			114作品
	句集「句集 幡」	辻田 克巳			
第2回	小説「小説 山城国一揆」	東 義久			39 作品
	民俗誌「狛犬学事始 宇治市・南山城編」	小寺 慶昭			
第3回	紀行文「旅ゆけバ愉し」	市嶋 絢			27 作品
	歴史研究「人麻呂渡しー律令からのメッセージ」	蓮沼 徳次郎			
第4回	小説「鉄の橋」	金丸 小代子	郷土研究「悠久の流れ 宇治川ー過去そして未来ー」	岡田 淳一	44 作品
	民話再話「宇治・山城の民話」	宇治民話の会	戯曲「時の音色」	京都府立城南高等学校演劇部	
第5回	歴史研究「数奇と呼ぶ日本の文化革命ー利休、織部の死の裏にひそむ意外な史実ー」	児島 孝			37 作品
	小説「由仁葉は或る日」	美唄 清斗			
第6回	小説「乳母車」	竺沙 光子	随筆「京のたつみに住みなれて」	三木 暢子	44 作品
			随筆「インカーネーション」	木下 猛	
第7回	随筆「エッセイ 西行桜」	矢野 喜久男	文集「たんぼぼ文集15号」	児童文学サークル	42 作品
	句集「八十五才から九十才までの作品抄」	坂 五十雄	研究「私たちの「ふるさと教育」～地域と共に歩んできた2年間の実践～」	宇治市立笠取小学校研究部	
第8回	小説「緑風館ラプソディ」	山下 裕美	抄訳「抄訳 源氏物語 ー～十三」	源氏のつどい	50 作品
			研究・記録「ウトロー置き去りにされた街」	地上げ反対！ウトロを守る会	
第9回	聞き書き「くらしの中でみる女性ー京都府宇治市を中心にしてー」	岡本 カヨ子	句集「くりくま句会 合同句集」	くりくま句会	53 作品
	紀行「インドネシア染織の旅」	長谷川 榮輔			
第10回	小説「有栖川」	笠井 心			52 作品
	詩集「太陽」	北村 陽子			
第11回	小説「痴呆」	むら山 豊	記念誌「伊勢田史友会三十年誌」	伊勢田史友会	43 作品
	小説「はるかなる山河」	竹岡 富仁子			
第12回	小説「帰命頂礼槇嶋縁起」	築紫 巧	句集「参百号記念洛南探勝誌句集」	洛南探勝句会	46 作品
	詩評論「現代詩への旅立ち」	神崎 崇			
第13回	小説「夢想窟」	久保田 稔	評論「島崎藤村の姪こま子の新生」	本庄 豊	49 作品
	詩集「空とぶほうほう」	岩本 良子	郷土誌「菟道のあゆみ」	菟道自治会	
第14回	小説「常世の樹」	岡本 晶	小説「背光(せなびかり)」	岡下 恭子	57 作品
	自叙伝「てん茶に生きる」	寺川 俊男	句集「夫婦善哉」	上林 貞信 上林 和子	

開催回	受賞作品	受賞者	選考委員特別賞	応募数
第15回	小説「パウリスタの風」	本庄 豊	郷土史「やさしい宇治の歴史」 岡本 望 句集「連合喜老会・俳句会『二十五年史』」 宇治市連合喜老会・文化部俳句委員会	55 作品
第16回	句集「方丈記」	加藤 彦次郎	随筆「むらさきの会10周年記念誌」	65 作品
	小説「三木パウロ・安土セミナリオ第一期生」	山寄 泰正		
第17回	ことばの研究「宇治のことば 調査報告 総合編」	宇治のことばを 探す会		50 作品
	詩集「撫順」	山本 万里		
第18回	歌集「伊勢田の森かげ」	高橋 敬子	戯曲「茶釜狸、秋の夜長に大和屋善四郎に遭ふこと」 森嶋 也砂子 随筆「波濤に立つ」 上田 詠子	52 作品
第19回	小説「列車の音色」	木澤 瑞季	ガイドブック「宇治の散歩道－第三集・西宇治地域編－」	(財)宇治市文化財愛護協会
	随筆「折々の人間学－京都で考えたこと」	川本 卓史		59 作品
第20回	小説「夏は来たりぬ－ウィーンの森の物語－」	隅垣 健	漢詩集「漢詩集 故郷宇治に詠う」	清水 太門
	小説「猫と暮らせば」	岡下 恭子		60 作品
第21回	随筆「瀬祭のごとく」	福井 記久子	小説「別涙」 新 割成 小説「Flyer」 古田 正樹	58 作品
第22回	歴史研究「抹茶の研究」	桑原 秀樹	郷土史研究「墓誌で探る旧伊勢田村の戦争」	岩田 行平
	小説「オーパーツをつなぐ」	譲原 萌子		62 作品
第23回	句集「百寿」	水田 寿子	歌文集「夫婦でつづる歌文集 完治宣言」	奥田 義人 奥田 君子
第24回	小説「雪明かり」	横道 しげ子	随筆「漢字－文字の旅」	鮎風 遊
	歌集「花のことづて」	沢本 彰子		50 作品
第25回	ノンフィクション「太八の青春と死 一戦時下の昭和史断章」	若原 憲和	句集「宇治川柳会 創立五周年記念合同句集 番茶」	宇治川柳会
	小説「ひなの川、町を流れて 一生家への鎮魂歌」	みぎわ せり		43 作品
第26回	随筆「つれづれの記」	小野 利子	民話「この子らのために2 宇治山城で聞いた戦争の話」	宇治民話の会
第27回	詩集「キハーダ」	北村 真		52 作品
	句集「青の先」	中井 保江		
第28回	歌集「木曾坊道」	長谷川 昭子	小説「学童疎開物語『太郎は父のふるさとへ』」	中川 晃
				52 作品

第35回紫式部市民文化賞受賞作品集 冊子化のお知らせ

第35回紫式部市民文化賞受賞作品を受賞作品集として冊子化しました。

紫式部市民文化賞受賞作品に加え、紫式部市民文化賞奨励賞及び紫式部市民文化賞ユース賞受賞作品についても、市民の皆さんに広く読んでいただけるよう作品集として冊子化しております。

○第35回 紫式部市民文化賞 受賞作品集 1, 100円

ご購入をご希望の方へ

実費頒布していますので、ご希望の方は、宇治市文化スポーツ課
へお問い合わせください。

問い合わせ

宇治市文化スポーツ課 文化係

電 話 0774-20-8724

F A X 0774-20-8977

Eメール bunkasportska@city.uji.kyoto.jp